

広蔵寺寄席

三遊亭鳳楽独演会



三遊亭鳳楽

チケットは当寺にて発売中！

日本の古典芸能「落語」の真髄を味わってみませんか！
「本物の落語」を是非この機会に！

期 日 10月7日(土)
時 間 午後5時半開場
午後6時 開演
会 場 広蔵寺 胎内市西栄町2-8
0254-43-2419
入場料 千円 (限定250名)

三遊亭鳳楽プロフィール

生年月日 昭和22年3月1日

出身地 小江戸・川崎市

【芸歴】

昭和40年10月 三遊亭円楽師匠に入門
大師匠名人六代目三遊亭圓生より「楽松」と命名される。

昭和47年楽松のまま二つ目昇進

昭和54年9月真打昇進。昇進して鳳楽。
大量真打昇進を批判して落語協会を脱退した円生が認めた最初で最後の真打である。高座には歌舞伎役者のような風格と気品ある色気が漂い円生、円楽へと引継がれる三遊派の噺を意欲的に継承し、明日の落語会を担う本格派である。

昭和52年第6回 NHK 新人落語コンクール
で最優秀賞受賞

昭和53年日刊飛切落語会若手落語家奨励
賞など多くの賞を受賞

平成5年文化庁主催の芸術祭賞を受賞



H17年(第1回)の鳳楽師匠独演会

<一口メモ>

五代目三遊亭円楽の総領弟子であり、昭和最後の名人と謳われた六代目円生を大師匠に持つ現代落語界随一の実力派！人情噺、滑稽噺、廓噺と何を演じても噺、筋共にその巧みさには定評がある。また300題とも400題ともいわれ演じるネタの多さとその全ての演目の完成度の高さも鳳楽の落語の魅力である。ますます磨きがかかる円熟の芸風に周囲からは「円生襲名を」との期待も高まっている。出囃子は「松の太夫」定紋は「三組橋」。著書に「隠居の重し - はるかなる円生への旅」(かや書房)がある。